



子供のやる気を引き出し、行動したくなる言葉かけ

子供のやる気を引き出そうとして「行動させる言葉」（指示・命令・脅迫・説得）を使ってしまふことがあります。しかし、それは子供のやる気をなくしてしまう結果になりかねません。行動させるのではなく、「行動したくなる言葉」でなければ、やる気は生まれないのです。

1 「一歩先のことを伝える」

例：早く起きなさい→ご飯できたよ

早く着替えなさい→友達が迎えに来たよ

◎目先の行動を変えようとするのではなく、一歩先の行動を伝えることが大切です。



2 やる気になる時間帯と場所を見つける

大人でも気分が乗らない時があります。子どもも同様です。勉強や課題、宿題など、やりやすい場所と時間を調査し、そのタイミングで取り組ませることも効果的です。



3 「まずは1つだけやってみよう！」

やり始められない原因は、はじめの一歩が踏み出せないからです。まずは最初の1問、最初の1ページだけやらせます。ここがうまくいけばやる気の歯車が動き出し、最後までやってしまえるはずです。大切なのは「はじめの一歩」なのです。



4 「別にいいんじゃない、やらなくても」

天邪鬼（あまのじゃく）的な傾向のある子どもに効果があります。大人が冷静に「やる気がないのであれば、やらなくてもいいと思うよ」と言われると、喜ぶより考えるようになります。やらない喜びよりも、やらない不安が大きくなってきます。それが一歩を踏み出す原動力となるのです。



5 「いい感じだね～」

「褒める」というよりは「認める」機会を多く設定することが大切です。軽く認めることを繰り返し、ここぞという時に褒めることが効果的です。



6 「ありがとう」「嬉しい」「助かった」

感謝されることで、子供のやる気はさらに引き出されます。感謝されると心が満たされるため、今までやりたくなかったことに対しても「やってもいいかも」と感じるようになります。



7 「着実に前進しているね」 前進・成長・進歩…

伸びていることを言葉にして伝えます。やったことで伸びを感じることで達成感や満足感が生まれ、次のチャレンジへの動機づけとなります。



8 「どちらからやる？」(選択肢を与える)

「国語と算数、今日はどちらから始める？」と問われると、通常はいずれかを答えます。この問いには「やらない」という選択肢がないのです。さらに自分で主体的に選んでいるので、責任も生じます。やることは当然という状況設定により、やる順番だけに焦点を当てています。



9 簡単！ 簡単！

親が子供に勉強を教える場合に効果的なワードです。「簡単！」という前置きを入れることで、「難しいからできない」というバイアスを外し、「できるかもしれない」という気持ちを芽生えさせるのです。



10 クイズ化する…「ヒントは〇〇」「制限時間は30秒」など

勉強を前向きに取り組む子や、主体性のある子たちの中には、勉強をゲームやクイズのようにとらえている子がいます。ゲームやクイズ感覚で勉強に取り組めるよう場を工夫することが大切です。例えば、これまでの勉強の足跡が見える化したり、RPGで主人公が成長していくように、小刻みに目標を設定したりして、達成したことへの満足感を味わわせ、新たな目標に向かうやる気を育ませることが大切です。

